108 誌上発表

金沢文庫旧蔵の医薬書

小曽戸　洋・花輪　壽彦
北里大学東洋医学総合研究所

金沢文庫（現横浜市金沢区金沢町）は北条（金沢）実時（1224～76）によって創始され，顕時→貞顕→貞将の4代にわたり営まれた鎌倉時代随一の文庫（図書館）である．その集書期は実時の晩年（13世紀後半）から幕府滅亡にともなう貞顕・貞将戦死（1333）の約60年の間とみられる．集書範囲は広いが，なかでも中国から輸入された漢籍の印刷物（宋版）は当時最新の舶来文物であった．医薬書もむろん例外ではない．それらは中国医薬学受容の実情を示す貴重な文化財である．金沢文庫本は後世四散し，全貌不明となったが，幸い「金沢文庫」印のある書についてはその由来を知ることができる．医薬書に関しては従来まとまった研究をみないので，以下に知見を報告する．

○『諸病源候論』南宋刊本．宮内庁書陵部所蔵．全50巻のうち巻40～43は補写．「金沢文庫」ⓑ，「養安院蔵書」「九折堂山田氏図書記」「森氏開万冊府之記」印がある．
○『備急千金要方』南宋刊本．国立歴史民族博物館所蔵．全30巻のうち若干を欠脱する．「金沢文庫」ⓑ印がある．
○『外台秘要方』南宋刊本．宮内庁書陵部所蔵．全40巻のうち存巻3・6・9・11・21・22・23・25・26・27・28の11冊．「金沢文庫」ⓐ印がある．
○『太平聖恵方』南宋刊本．全100巻のうち，名古屋市蓬左文庫に巻5～10・17・18・25・26・29・30・33・34・45・46・49～56・59～64・69・70・75～84・87・88・91・92・95・96・100の50冊，宮内庁書陵部に巻73・74・79・80の4冊，東京国立博物館に巻81の1冊（現在行方不明）が所蔵される．いずれも同版本で各々「金沢文庫」ⓐ印がある．重複巻のあることから一揃以上の架蔵があったことが知れる．
○『楊氏家蔵方』南宋刊本（1185刊）．宮内庁書陵部所蔵．全20巻21冊揃．「金沢文庫」ⓑ印がある．
○『孫真人玉函方』3巻・『膏肓腧穴灸法』1巻・『産育宝慶集』1巻，宋元刊本．館山市立博物館所蔵．平成20年館山市の個人宅から発見．いったん亡失したとみられたが，平成24年5月に再発見．「金沢文庫」ⓑ印がある．
○『新編類要図註本草』宋元刊本．宮内庁書陵部所蔵．全42巻22冊揃．「金沢文庫」ⓐ印がある．
○『厳氏済生方』室町初期写本．国立公文書館内閣文庫所蔵．全10巻のうち存巻1・2（1冊）．所捺の「金沢文庫」印の真疑に関しては所説がある．巻首に『厳氏済生続方』の序が移綴．内閣文庫には別に『続方』室町初期写本1冊（欠巻9・10）が所蔵される．これらについては再考を要する．
○『続易簡方論』江戸写本．宮内庁書陵部所蔵．6巻3冊．金沢文庫本そのものではないが，「金沢文庫」印が模写されているので，かつてその原本たる南宋刊本が存在したと推定される．
○『鍼灸資生経』日本旧鈔本．国立公文書館内閣文庫に6冊（欠巻1首・2），東京国立博物館に2冊（存巻首・2）が所蔵され，両者は僚本で合わせば完帙となる．台湾故宮博物院にも巻首零本（小島・楊旧蔵）の古鈔本が存．いずれにも「金沢文庫」印の写しがあり，もと金沢文庫に南宋版が所蔵されていたとみられる．
○『幼々新書』南宋刊・巻38零本．国立公文書館内閣文庫所蔵．石原明（「彙報金沢文庫」18号・1956）はこの書に「頤神」の印があり，荻野本宋版『外台秘要方』に同印のあることから同書を金沢文庫本と断定．以後定説となっている．しかし，これは宮内庁書陵部本『外台』（金沢本）と荻野福井本『外台』（杏雨書屋所蔵・非金沢本）を取違えた誤認で，当該本は金沢文庫旧蔵ではない．

以上の検討の結果，金沢文庫旧蔵の医薬書として，今日原本が確認されるもの9書（いずれも宋元版），さらに後世の転写本からかつての所蔵が推定されるもの2書，計11書の存在が確認された．